

A 課題の整理 援助者が感じている課題

事例にあげた課題に対して、あなた自身が困っていること、負担に感じていること等を具体的に書いてください。

- ・笑って楽しそうにしている、急に怒り出し他者の悪口を口に、言われた人は傷つき、そして同じ利用日は嫌であるとサービス利用を拒むことが困る。自分の身の回りのものを投げつけたり、他者に怪我をさせると困る。大声で怒り出すので全体の雰囲気が沈んで行く。利用者全員から孤立することを避けたい。職員が本人の意見を尊重しようとする、他者が「あの人ばかり大事にしている」と言うこともつらい。

【質問】

急に怒り出す時に何かきっかけと思われるような事柄や状況が、本人や周囲にありましたか？

【回答】

他者が楽しんで自分が孤独を感じたとき・自分が優先されないとき。細かい作業がうまくいかなかったとき・他者の失敗を見たとき。

同じような状況でもいきなりスイッチが入ることがあり、分からないままのときもある。

【質問】

これまで、どのような言葉かけをしたときに本人の気持ちが落ち着いてきましたか？

【回答】

今までの生活の話をお聴かせしてもらったり、得意だったことを話しかける。優越感を持ったり、他者より大事にされたときに落ち着くように思う。

B 課題の整理 援助者が想定する対応・方針

あなたは、この方に「どんな姿」や「状態」になって欲しいのですか。

- ・心穏やかに日々を過ごし、他者の悪口を言ったりすることなく他者と関わることができ、場の雰囲気を壊さない状態になれば良い。

【質問】

これまで、「本人が心穏やかに過ごしているなあ」とスタッフが感じた場面や出来事などはありましたか？

【回答】

自分の気になる行為をする他者がいないとき。

自分の話すことを「うんうん」と聞き、話し相手になってくれる他者がいるとき。

そのために、当面どんな取り組みをしたいと考えていますか(考えましたか)。

- ・字を書くことや楽器の演奏を提供するが、最近はずも忘れてきている。

【質問】

初回利用時は趣味活動の先生として来園していた経過がある中で、今までできていたことも忘れるようになってしまった今の自分について、本人はどのように話したり、感じていると思いますか？

【回答】

「本当にわからない者になって。」「ダメになった。」とも言うが、字が間違っている（線が一本足りない、点が無い等）「これでよい。」と言う。自分の思うような字に仕上がらないと「書けない！」「前はもっと上手だった。」と怒り出すこともある。自分自身に腹を立てているようにも思う。多数を優先している現状から、他者から離れたソファを利用（指定席）食事をとるときも他者が食べている姿が見えない位置に座ってもらう。

- ・利用時は、家族から排便の状態を聴き取る。

【質問】

排便の状態と本人の状況とが関係しているように思いますか？

【回答】

すっきりしないと、イライラすると思う。失便後でも機嫌は良くなる。

C 本人の状態や状況を事実に基づいて確認してみよう

困っている場面で、本人が口にする言葉、表情やしぐさ等を含めた行動や様子等を事実に基づいて書いてください。

- ・他利用者がズボンを下げやすくするために下着を腰から出していると、後ろからひっぱる。
- ・視力の弱い他の利用者が一点をじっと見つめていると、「私をにらみつけた」と大声で怒り出す。
- ・「こぼさずに食べないとダメだ」と自分の皿を投げる。手の届くところにある物を投げつける。
- ・お互いに難聴であっても、「返事もできんのかー」と怒り出す。
- ・痛いところがあるときは静か。

【質問】

このような様子の時の本人の気持ちはどのようなものだと思いますか？

【回答】

自分はきちんとできているし、してきた。行儀の悪いことは指導したい。自分は責められることはない。

D 課題の背景や原因等の整理

本人にとっての行動や言葉の意味を理解するために、別紙の展開図に記入してから、課題の背景や原因として考えられることを書きだしてみましょう。

- ・若くして未亡人となり、負けない、バカにされてはいけないと、頑張り続けてきた。みんなもがんばれ、と思っている。
- ・田んぼに入ったこともなく大事にされて勉強の成績も良かった。それなのに、何故こんな苦勞をするんだ。でも、山、田畑、屋敷も広いし、財産があるから守っていこう。出来ないことはないと言った。
- ・私のおかげでみんな幸せに暮らせたという想い。良い嫁であったという想い。自信を持っている。

【質問】

未亡人となりながらも頑張り続けてきて、良い嫁であったという自信も持っている本人に対して、家族や知り合いの方などから感謝やねぎらいの言葉などはあるのでしょうか？

【回答】

娘の介護なので、多分時折ねぎらっていると思われる。しかし、職員には言っても、本人には言わない可能性は高い。

E 事例に書いた課題を本人の視点に置き換えて考えてみよう

ここで、この事例を本人の立場から、もう一度考えてみましょう。

本人の言葉や様子から、本人が困って（悩んで）いること、求めていることは、どんなことだと思えますか？

- ・頑張り続けてきた自分を大切に、ほめて欲しい。

【質問】

「頑張り続けてきた自分を大切にしてほしい」ということをどのようなイメージで本人は考えていると思いますか？

【回答】

家柄も良く、学校も出て、夫は公務員だった。そのことを認めて欲しいと思っているのではないかな。甘え方もわからない。

「下手な戦争をした」とよく言っているので、ただただ戦争が憎いという感情がある。

あなた達が、私の言ったとおりになれば良い人になれる。頑張り続けて欲しい。

私が言っていることは、励ましているのだから、間違えていることを正せば良い。

みんな行儀良くして欲しい。私も歌いたいし、楽しい仲間に入れて欲しい。

F 課題解決に向けた 新たなアイデア

あなたが、このワークシートを通じて思いついたケアプランなど、新しいアイデアをいくつかでも書き出してみましょう。

- ・お話ボランティアを探す。

【質問】

お話ボランティアをお願いするとしたら、どのような話題で本人とコミュニケーションをとってもらおうと考えていますか？

【回答】

学校や働いていた頃のこと。本人の認めている、昔から知り合いの話し相手。苦勞話でも、戦争で夫を亡くした気持ちから不安にしないような話題に持っていく。

- ・排便コントロールを行う。

- ・失敗のないゲームを作る。

【質問】

失敗を感じないゲームを作るために、本人のどのような部分を大切にしながら作っていかうと考えますか？

【回答】

チーム対抗でも、自分のチームの他者が上手にしないと怒る為、個人の能力がはっきりしないゲームなら良いと思う。

- ・気の合いそうな男性利用者または、同姓の友達を作る。
- ・他の町の人との交流、または、同じような苦勞をした人との交流。

【質問】

交流が図れるよう働きかけをするときに、本人のどのような部分を引き出してみようと考えますか？

【回答】

自分の辛かった、我慢してきた気持ちを吐き出す。そして、得意な分野のことや、知っている歌と一緒に歌うことで、心が慰められるのではないかと考える。

【全般的な質問】

大変な苦勞をしてきたAさんの気持ちを理解し、頑張ってきたこの方が独りぼっちになることのないように、考え話し合っているスタッフの努力が手に取るように伝わってきました。すぐに解決できる課題ではないのかも知れませんが、本人の行動や言葉の意味に注目した今回の取り組みで、スタッフが改めて気がついたことや確認したことなどはありましたか？

【回答】

他利用者に対しての暴言や暴力を防ぐために離れた席も、本人の心が安定する場合と、そこから眺めて、他利用者が楽しそうに談話していることに怒る場合もあり、ボランティアあるいは職員見守りの中での本人との話し相手が必要だと痛感した。

本人を、あんな人だから仕方がない、若いときからの性格、という情報で見えていた部分もあったと思う。スタッフは、とにかく怒らせないようにすることに重点を置いてきた対処型だったと思う。

(助言者の考察)

他者への暴言や暴力などが原因で、少しずつ孤立していってしまう本人を目の前にして、自分たちに何ができるのかということをもう一度見直した取り組みでした。当初は、離れた席での過ごし方などからケアを組み立てましたが、席を離すことだけで解決するものではないとすぐに気付き、本人の中にある発散できていない気持ちをちゃんと受け止めることに転換しています。また併せて、固定観念の情報中心に本人を見てしまい、実際の今の本人から距離をとってしまっていたことにも気付き、怒らせないようにすることに重点を置いてきた対処型だったと真摯に自分達のケアの在り方を振り返ってくれました。

私たちはいろいろなことが要因となって引き起こされるBPSDについて、起きているトラブルばかりに注目をしてしまいがちですが、実は今回の事例のようにもう一度振り返り、見直してみることで、本人の本当のつらさや不安、願いやできる力など新たな視点を持つことができるのだと教えていただいた貴重な事例でした。今後は書いているように、話をすることや、失敗を突き詰めないアクティビティなどいろいろと展開していくことと思いますが、その取り組みの過程でも、時々立ち止まって振り返ることで、今の本人を見失わないように取り組んでいくことと思います。